

『世界とつながる食べ物』

『子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を身に付けていくためには、何よりも「食」が重要である。今、改めて、食育を、生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置付けるとともに、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる食育を推進することが求められている。もとより、食育はあらゆる世代の国民に必要なものであるが、子どもたちに対する食育は、心身の成長及び人格の形成に大きな影響を及ぼし、生涯にわたって健全な心と身体を培い豊かな人間性をはぐくんでいく基礎となるものである。

一方、社会経済情勢がめまぐるしく変化し、日々忙しい生活を送る中で、人々は、毎日の「食」の大切さを忘れがちである。国民の食生活においては、栄養の偏り、不規則な食事、肥満や生活習慣病の増加、過度の痩身志向などの問題に加え、新たな「食」の安全上の問題や、「食」の海外への依存の問題が生じており、「食」に関する情報が社会に氾濫する中で、人々は、食生活の改善の面からも、「食」の安全の確保の面からも、自ら「食」のあり方を学ぶことが求められている。また、豊かな緑と水に恵まれた自然の下で先人からはぐくまれてきた、地域の多様性と豊かな味覚や文化の香りあふれる日本の「食」が失われる危機にある。

こうした「食」をめぐる環境の変化の中で、国民の「食」に関する考え方を育て、健全な食生活を実現することが求められるとともに、都市と農山漁村の共生・対流を進め、「食」に関する消費者と生産者との信頼関係を構築して、地域社会の活性化、豊かな食文化の継承及び発展、環境と調和のとれた食料の生産及び消費の推進並びに食料自給率の向上に寄与することが期待されている。

国民一人一人が「食」について改めて意識を高め、自然の恩恵や「食」に関わる人々の様々な活動への感謝の念や理解を深めつつ、「食」に関して信頼できる情報に基づく適切な判断を行う能力を身に付けることによって、心身の健康を増進する健全な食生活を実践するために、今こそ、家庭、学校、保育所、地域等を中心に、国民運動として、食育の推進に取り組んでいくことが、我々に課せられている課題である。さらに、食育の推進に関する我が国の取組が、海外との交流等を通じて食育に関して国際的に貢献することにつながることも期待される。

ここに、食育について、基本理念を明らかにしてその方向性を示し、国、地方公共団体及び国民の食育の推進に関する取組を総合的かつ計画的に推進するため、この法律を制定

する。』これは、平成17年6月制定の食育基本法の前文の一部です。

この前文の中にもあるように、「食」の海外への依存の問題については、今後の日本の将来を担う子どもたちが背負う課題であることを教えていかななくてはなりません。

今の日本は、世界中から食材をかき集め、世界中の料理をグルメと称して食べつくしています。また、食の欧米化によって日本の食文化を見失いつつあります。その結果、子どもから大人までが健康も害しつつあります。経済繁栄のなかで飽食の時代を迎えた日本がどのように世界とつながり、地球上の人々に支えられているのかを知らなければなりません。穀物の輸入量をみると、圧倒的に日本はトップクラスにあるのです。小麦、とうもろこし、大豆は自給率が低く、完全に輸入に頼っています。水産物の輸入量をみても、世界中で圧倒的にトップクラスです。日本は海に囲まれ、昔から水産業が盛んで魚介類には不自由しないという話はすでに過去のこと、地球の温暖化による海水温の変化などが原因で獲れなくなってしまったのです。

たとえば、すしのネタはもはや世界中から集められているのです。エビはインドやインドネシアから、カニはロシア、カナダから、タコはモロッコ、モーリタニアから、サケ、マスはチリ、ノルウェーからなどです。もう一つの例として、てんぷらそばもよく話題になることがあります。醤油の材料となる大豆やエビ、小麦粉などは、前述のとおりで、肝心のそば粉についても、国内産のそば粉の使用量は2割以下で、8割以上は輸入に頼っているそうです。せいぜい日本産のものといえは長ネギくらいでしょうか。このように和食の代表といえるすし、てんぷらそばですが、日本中の人々が日常あたり前のように口にするためには、世界の国々から材料を輸入することがなくてはならないのです。

これらの世界中から集められる豊かな食べ物の背後に、現地の人々のさまざまな生活の実態があることを知ることも重要なことです。たとえば、現地の子どもたちはお弁当にエビの頭だけを持ってくると、現地で獲れた魚は日本の犬や猫が食べる餌として使われるため食べることができないこと、エビの養殖のために次々とマングローブの林が消えていること、さらに、バナナの消毒液で健康を害する人がいることなど、日本の食生活が、現地の人々とつながり合い、しかも、たいへんな犠牲も払ったうえに成り立っていることを子どもたちが知ることは大事なことで考えます。